山の中のトイレ

屋久島の自然のままの森を維持していくには、ハイキングのガイドライン、特にトイレに関するガイドラインを守っていただくことが大切です。屋久島保護区内での人間の排泄物の影響を軽減するための様々な手段があります。従来の水洗トイレに加え、屎尿を乾燥粉末に処理するビオトイレがあります。また、ハイカーが森から持ち運び、最寄りの登山口にある専用ボックスに捨てる「携帯トイレ」を利用できるブースも多くあります。これらのトイレ設備の維持管理には多大な時間と労力を要するため、屋久島山岳部保全利用協議会では、ハイカーの皆様からいただいた寄付金をもとに、これらの重要なサービスを提供しています。

1990年代から初頭にかけては、島の繁忙期に殺到するハイカーを収容するのに十分なトイレ施設がなく、混雑と利用過剰が生じていました。祠の近くや切り株の中、川や泉のそばで人の屎尿が発見されることもありました。また、川や泉の近くや木の切り株の中に人間の排泄物があったのパークレンジャーが発見しました。水洗トイレがあるのは主要な登山口や観光施設に限られており、山小屋や山頂付近で利用できるのは屋外トイレしかありませんでした。排泄物は、これらのトイレから、毎年多額の費用をかけて片付けられ、プラスチック製の容器に入れられ、人力で山を下りて運ばれていましたし、それは今も続いています。タンク2個（合わせて40キロ近く）を担いだポーターが下山を完了するのに2日かかることもあります。

尿尿の処理にかかる肉体的・経済的負担を軽減するため 2010 年に導入されたのが、携帯型の使い捨てトイレを使ったシステムです。このコンパクトなパッケージには、携帯トイレブースの便座に設置するための深緑色のビニール袋と、安全に保管するための薄緑色のジップロック袋の 2 つが付属してされています。使用済みの袋は、登山口に設置されている長方形のグレーのゴミ箱に入れてください。携帯トイレパックは、島内の観光案内所やショップ、ホテルなどで事前に購入することができます。購入金額のうち 70 円は環境保全協力金に寄付されます。

荒川登山口から 1 時間半強の荒川トレイル沿いの楠川分かれ付近には、画期的なビオトイレが設置されています。水を使わず、回転ドラムとミキシングブレードを使って排泄物とおが屑を混ぜ合わせる環境に優しい仕掛けです。使用後は、ボタンを押してドラムの中身を回転させ、堆肥化を促進させてください。熱を発生する微生物の働きにより、廃棄物は体積を大幅に減らした乾燥粉末となります。回転機構を詰まらせる原因となるため、ゴミをビオトイレに捨てないようお願いします。

3 月から 11 月までの繁忙期の間は、主要なトレイル沿いにテント型の携帯トイレブースも多数設置されます。全てのトイレの場所を示した地図の用意がありますのでハイキングの際にはご参照ください。